



TITLE:

<教育研究>3.紀要抄録

AUTHOR(S):

CITATION:

<教育研究>3.紀要抄録. 瀬戸臨海実験所年報 1989, 3: 6-7

ISSUE DATE:

1989-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178843>

RIGHT:

3. 紀 要 抄 録

瀬戸臨海実験所紀要 (Publications of the Seto Marine Biological Laboratory) 第32巻は、1~3号 (合併) が1987年8月10日、4~6号 (合併) が同年12月26日に発行された。論文12編、生物学データ1編を掲載し、総頁数は337頁。以下に、その内容を紹介する。

第32巻1/3号 (1987年8月)

論文1. Hirayama, A.: Taxonomic studies on the shallow water gammaridean Amphipoda of west Kyushu, Japan. VII. Melitidae (*Melita*), Melphidippidae, Oedicerotidae, Philantidae and Phoxcepehalidae. [平山明. 西九州の浅海産端脚目ヨコエビ類の分類学的研究. VII] 九州西岸から、12新種・新亜種を含む12属20種を報告した。(頁1~62)

論文2. Humes, A. G.: Copepoda associated with crinoid echinoderms in the western Pacific. [A. G. Humes. 西太平洋産ウミユリ類棘皮動物に共生する橈脚類] 西太平洋のウミユリ類から得られた7新種を含む10種の橈脚類を記載した。インド・太平洋、および地中海のウミユリ類から発見された橈脚類の記録を含む。(頁63~108)

論文3. Juwana, S. & K. Romimohtarto: A comparative study of some larval stages of *Penaeus monodon* and *Penaeus merguensis* (Crustacea: Decapoda). [S. Juwana, K. Romimoh-tarto. インドネシア産ウシエビおよび *Penaeus merguensis* (甲殻類, 十脚類) の幼生の比較研究] インドネシア産のクルマエビ科に属する2種のエビにつき、ノープリウス, プロトゾエア, ミシス幼

生期の形態を比較研究した。(頁109~122)

論文4. Konishi, K.: Larval development of the spiny sand crab *Lophomastix japonica* (Duruflé, 1889) (Crustacea, Anomura, Albuneidae) under laboratory conditions. [小西光一. 実験室条件下におけるキタクダヒゲガニ (甲殻類, 歪尾類, クダヒゲガニ科) の幼生发育] 北海道産のキタクダヒゲガニの全幼生期を、室内飼育観察によって明らかにした。本種は、3ノープリウス期と1メガロバ期を持つ。(頁123~139)

論文5. Itô, T.: Three forms of nauplius y type VIII larvae (Crustacea: Facetotecta) from the North Pacific. [伊藤立則. 北太平洋産ノープリウス y VIII型 (甲殻類, ファケットテクタ) の3型について] 田辺湾のプランクトンから得られたノープリウス y 幼生, VIII型に属する3つの型を記載した。VIII型幼生は、世界でも田辺湾以外からは知られていない。(頁141~150)

第32巻416号 (1987年12月)

論文6. Izawa, K.: Studies on the phylogenetic implications of ontogenetic features in the poecilostome nauplii (Copepoda; Cyclopoida). [伊澤邦彦. ツブムシ類ノープリウス幼生 (橈脚類, キクロプス目) における個体発生上の特徴の系統学的意義の研究] ツブムシ類の卵とノープリウス幼生の形態を、系統学的見地から論じた。ノープリウス期の省略が進行する過程や、他の甲殻類グループとの関係についても議論した。(頁151~217)

論文7. Ohtsuka, S. & J. Hiromi:

Calanoid copepods collected from the near-bottom in Tanabe Bay on the Pacific coast of the Middle Honshu, Japan. III. Stephidae. [大塚攻, 広海十郎. 中部本州太平洋岸, 田辺湾の近底層に産するカラヌス目橈脚類, III] 田辺湾の近底層プランクトンから得られた *Stephos* 属の2新種を記載した. 食性に関する観察も行われた. (頁219~232)

論文 8. Quintana, R.: Later zoeal and early postlarval stages of three dorippid species from Japan (Brachyura: Dorippidae: Dorippinae). [R. Quintana. 3種の日本産ヘイケガニ類 (短尾目, ヘイケガニ科, ヘイケガニ亜科) の後期ゾエアおよび後幼生期について] 土佐湾のキメンガニ, ヘイケガニ, サメハダヘイケガニの, ゾエア, メガロパなどを記載した. (頁233~274)

論文 9. Yamato, S.: Four intertidal species of the genus *Melita* (Crustacea: Amphipoda) from Japanese waters, including descriptions of two new species. [大和茂之. 日本の潮間帯産 *Melita* 属 (甲殻類, 端脚目) の, 2新種を含む4種について] 瀬戸内海の潮間帯より得られたメリタヨコエビ類の, 2新種を含む4種を記載した. (頁275~302)

論文 10. Senou, H., T. Yoshino & M. Okiyama: A review of the mullets with a keel on the back, *Liza carinata* complex (Pisces: Mugilidae). [瀬能宏・吉野哲夫・沖山宗雄. 背中線隆起縁を持つボラ類, *Liza carinata* complex の分類学的再検討] 第1背鰭より前方の背中線に隆起縁を持つことを特徴とする *Liza carinata* complex の分類を再検討し, 地理的変異等も論じた. この中には, 日本のセスジボラも含まれる. (頁

303~321)

論文 11. Noda, H.: A new species of marine Tardigrada of the genus *Florarctus* (Heterotardigrada, Halechiniscidae) from Japan. [野田泰一. 日本の海産クマムシ, *Florarctus* 属 (節クマムシ類, ウミクマムシ科) の1新種について] 田辺湾から発見されたクマムシの新種, *Florarctus glareolus* を記載した. この属は, 日本初記録である. (頁323~328)

論文 12. Wada, K., A. Komiyama & K. Ogino: Underground vertical distributions of macrofauna and root in a mangrove forest of southern Thailand. [和田恵次・小見山章・荻野和彦. 南タイのマングローブ林における大型底生動物と根の深度分布] 南タイのマングローブ林内において, 地表から深さ1mまで, 大型底生動物と根の生重量の深度分布を調べた. 動物と大型の根は地表近くに片寄るが, 細根は最深部まで比較的一様に分布し, また動物の中には最深部まで出現する種があることが明らかになった. (頁329~333)

生物学データ 1. Ohgaki, S. & H. Tanase: Composition of the fixed sea urchin colony on Hatakejima Island, 1983-1987, with review of the past 25-years data. [大垣俊一・田名瀬英明. 1983年から1987年までの畠島永久コドラート内ウニ類組成と, 過去25年間のデータの概観] 畠島西岸の観察域内のウニ類の種別密度について, 1983年から1987年まで5年間に毎年1度行った調査の結果を示し, 合わせて1963年以来25年間のデータを総括した. ウニ類の種数は1960年代末ごろから減少を続け, 最近5年間のウニの密度は過去最低レベルを推移している. (頁335~337) (紀要編集委員会)